

2022年8月

大橋直紀

ロータリー月例報告書 vol.2

留学先：イタリア（フィレンツェ滞在中）

八月上旬、階段から滑り落ち背中を強打し、数日痛みのため安静に過ごすということがありました。一週間ほどして痛みは収まりましたが、健康な身体があつてこそやりたいことができるかと改めて実感をし、健康面に一層気を配ろうと再確認をした今月です。

さて、八月は主に翌月の音楽院の入試に向けて勉強と練習に励んでいました。試験の内容や課題曲も学校ごとに異なるため、語学や音楽理論の勉強と共に、数多くの楽譜と向き合う日々です。また、検討していた音楽院の下見のためにいくつかの街を訪問する中で、

今月も再びヴェローナを訪問する機会があり、今回は野外歌劇場アレーナにてオペラ「トゥーランドット」を観劇しました。

「トゥーランドット」はプッチーニの遺作として知られ、中でも王子カラフ役のテノールが歌う「誰も寝てはならぬ」はパヴァロッティが十八番とし、また日本国内でもフィギュアスケーター荒川静香さんが登用したことで、国内外で非常によく知られた一曲です。今回の公演では、現代を代表するソプラノ歌手の一人であるアンナ・ネトレプコが王女トゥーランドット役で出演しており、その肉声を生で聞くことができました。

さらに、カラフ役で出演していたユシフ・エイヴァゾフもアンコールを受けて「誰も寝てはならぬ」を二度繰り返して歌うなど、素晴らしい歌声を披露していました。

また、八月には知り合いからお誘いをいただき、プラトリーノというフィレンツェからバスで30分ほどの地域にて、野外でオーケストラの演奏を聞く機会にも恵まれました。アレーナのような常設の歌劇場ではなく、広い公園にて外で聞くオーケストラの演奏というのもとても新鮮で、風の音や虫の声など自然の音と一体となった演奏もまた、とても趣深いものでした。

そして演奏面のほかにとても好ましいと感じたこととして、このオーケストラの背後にある広場にて、草原に寝転がって演奏を聴いている方々が少なくありませんでした。音楽の楽しみ方として、スーツや



第二幕 王子カラフが試練に挑む場面



トスカーナオーケストラの演奏会にて

ドレスを纏って向かう社交場といった側面だけでなく、自由で気軽に楽しめる側面があるということ、また日常生活に演奏が溶け込んでいるということは、本当に居心地がよく素敵で、そういった空間にいられることがとても幸せだと感じました。

現在9月に差し掛かり、音楽院の入試もいよいよ佳境を迎えました。厳選した複数の音楽院へ申請をし、合格した中でより好ましい学校への入学をと検討をしているところですが、語学や文化の違いもあり、厳しい現実も少なからず目の当たりにしているように感じています。しかし、こういった中で動くからこそ新しい出会いもあり、自身の新しい課題も見つかり、努力したいことや挑戦したいことが沢山見つかっています。こうした新たな発見ができる幸せと、この環境にいられるありがたみを噛み締めつつ、応援をいただいている皆さまからのご期待に添えるよう今後も引き続き励んでまいります。

末筆となりますが、今後とも皆さまからの変わらぬご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。